

「アジア経済とどう向き合うか」

アジア・経済班

3年 西村 遼 岡 俊輔 立花 友恵

2年 星野 一 田邊 大輔

目次

- × [1] 年間問題意識 [2] 目的
- × [3] 研究調査のフレームワーク

[4] ヒト

- 4-1 訪日外国人
- 4-2 グローバル人材
- 4-3 APU・アンケート調査

[5] モノ

- 4-1 TPPにより打撃を被る農業
- 4-2 日系ブラジル人向け農作物
- 4-3 ASEANを地域経済統合

[6] カネ

- 5-1 アジア資本市場への影響
- 5-2 アジア実体経済への影響
- 5-3 直接投資の現状

[7] 産業

- 3-1 資源をどう有効活用するか
- 3-2 貧困層の現状
- 3-3 環境をどう捉えるか

目次 (続き)

[8] 成果

[9] まとめ、感想

[10] 参考文献

年間問題意識

アジア経済班では、ヒト・モノ・カネ・産業の4つのフレームワークを立て、今起こっている最新の動向を掴む事を心がけて研究を行った。

その中で、国や政府目線でアジア経済を分析するのではなく、「学生目線」でアジア経済、アジア市場を分析することに最重要視してきた。

その上で、アジア経済の実態を掴むとともに、特徴を列挙し、問題点及び課題は何があるのか、そして今後の方向性を位置づける事を行った次第である。

目的

- × 今後、飛躍的にアジア市場が拡大する中で、既存の固定概念に捕らわれることなく、学生目線で判断していくことにより、アジア市場をより身近に感じるられるようにする。

その上でアジアに関し学生目線のオリジナリティある発想を生み出す。

- × 今後のアジア市場の方向性を参考資料やフィールドワークを通し、導き出す。

4つのフレームワーク

ヒト

訪日外国人
グローバル人材

モノ

FTA・EPA・TPP

カネ

投資

産業

資源・貧困・環境

ヒトに重点

ヒトに重点を当てた理由は？

- × 今回、最終研究発表に際し、「ヒト」の部分に大注目した。なぜならば、大分APUへのフィールドワークにおいて、アジアの事を知る為には、アジア各国に住んでいる人と付き合わない限り、アジアの国も文化も理解できないということが確証づけられたからである。
- × そして、日本だけの事を考えて他国と付き合い合うのではなく、相手国の理解が必要であるということも同時に気付いた。相手国を理解するには、温かみのある人間付き合いが必要であると判断した為である。

2010年11月15日 大分県別府市

アジア立命館太平洋大学へのFW。

決行！！！！

大分の山奥にある！！



[4] APUアンケート調査対象者

- ◆ アンケート人数；30名
- ◆ 実施日；2010年11月15日（月）
- ◆ 国籍；インドネシア、ベトナム、韓国、中国、ソロモン諸島、インド など
- ◆ 対象者；APU留学生

[4]APU・アンケート調査からわかる特徴

- ◆ **【グローバル人材に関して】**
- ◆ グローバル人材とは文化面でも理解がある人
- ◆ グローバル人材とは他国の理解がある人
- ◆ 誰に対しても社会的である
- ◆ 相手の気持ちを理解できる人

APU・アンケート調査からわかる特徴? 【日本に対しての捉え方】

- × 日系企業はストレスが溜まりやすい職場のイメージがある。
- × ワークライフバランスが不徹底
- × 日系企業は個々の能力を成長させるよりも、会社という組織を成長することに目が向いている。
- × 交通費が高い。
- × 標識などに関し中国語の表記が少なすぎる。
- × 2カ国語以上会話が出来る人が全体的に少ない。

[5]モノ 貿易面から分かりえたこと

「日本独自のルールづくりを世界に！」

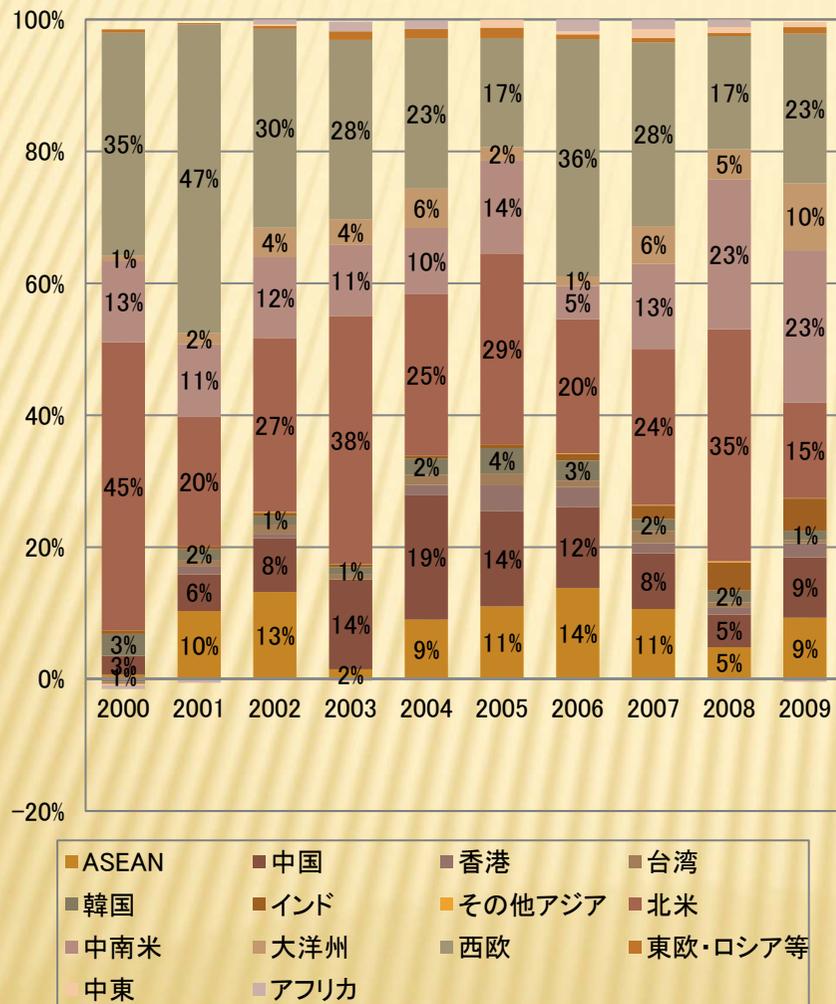
- × 一連の自由貿易を研究してきた中で、恩恵を受ける人と損を被る人が2分化する現実が見えた。その上で、日本は当事者として変化にどのように対応し、行動しなければならないのかが浮き彫りになった。
- × 多国間協定を見てきたが、日本が諸外国のルール作りに共感をし、参加を促していくのではなく、日本独自のフレームワークを作った上で、アジア諸外国に賛同していくことの方が大事であると感じた。その事が出来れば、日本が主導の東アジア共同体は実現できると実感した。

[6] カネ 世界の投資状況は今!

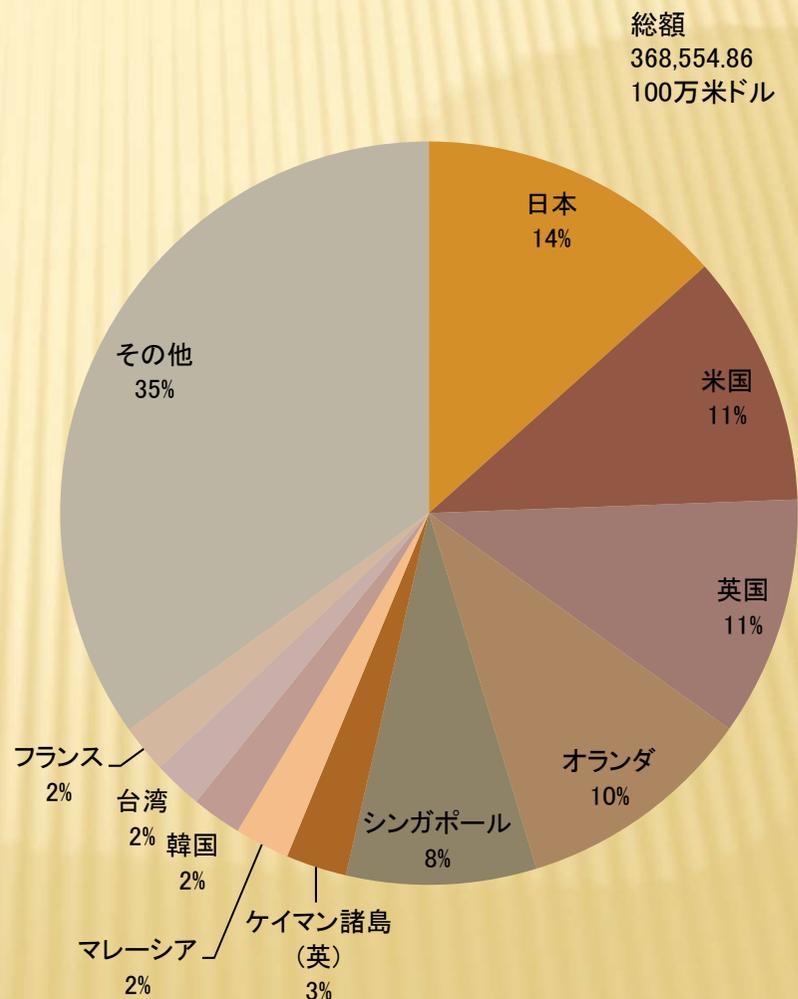
- ✖ アジア域内では対外投資額に比べて対内投資額が大きく、アジア市場は世界の投資先としての存在感を強めている。特に中国への投資の拡大は目覚ましく、東アジアへの直接投資の半分以上を中国に向けた投資が占めている。
- ✖ 日本は対外直接投資を行う国としてはアジア最大である。日本はアジアへと大規模な直接投資を展開しており、投資元としてアジア域内で重要な存在となっている。

直接投資に関する資料

日本の対外直接投資の内訳

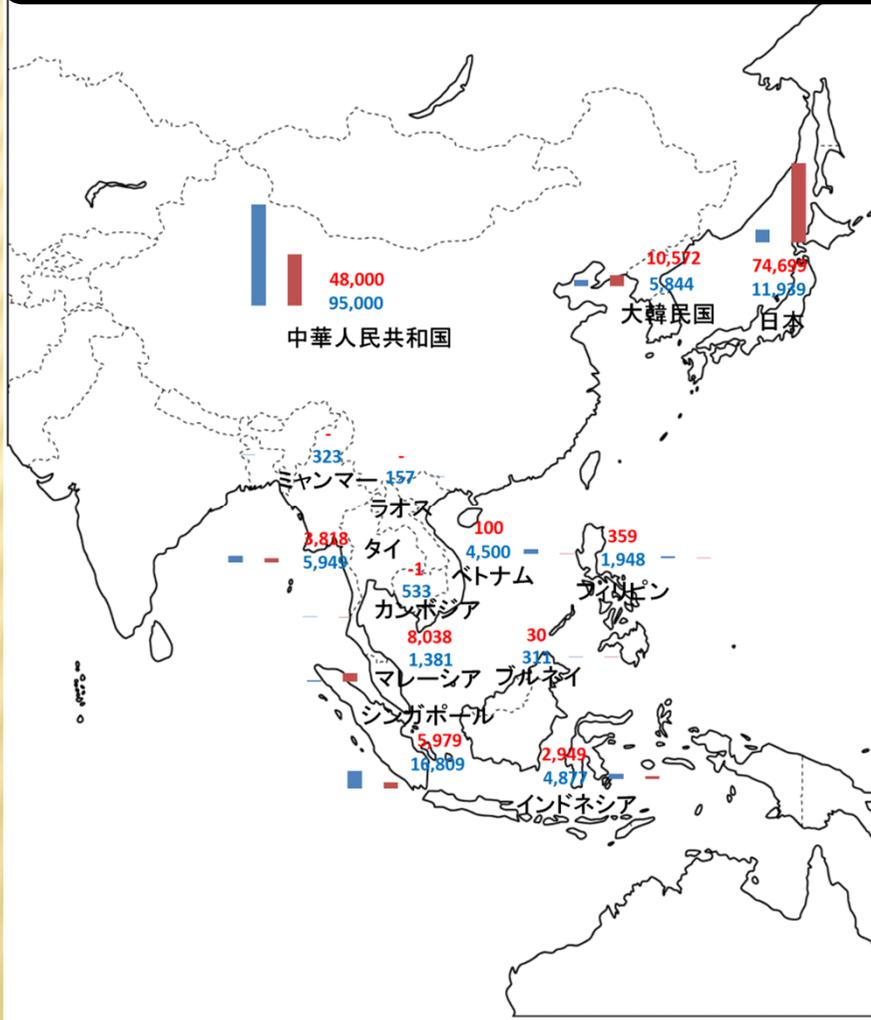


ASEANへの直接投資の内訳 1999-2008年



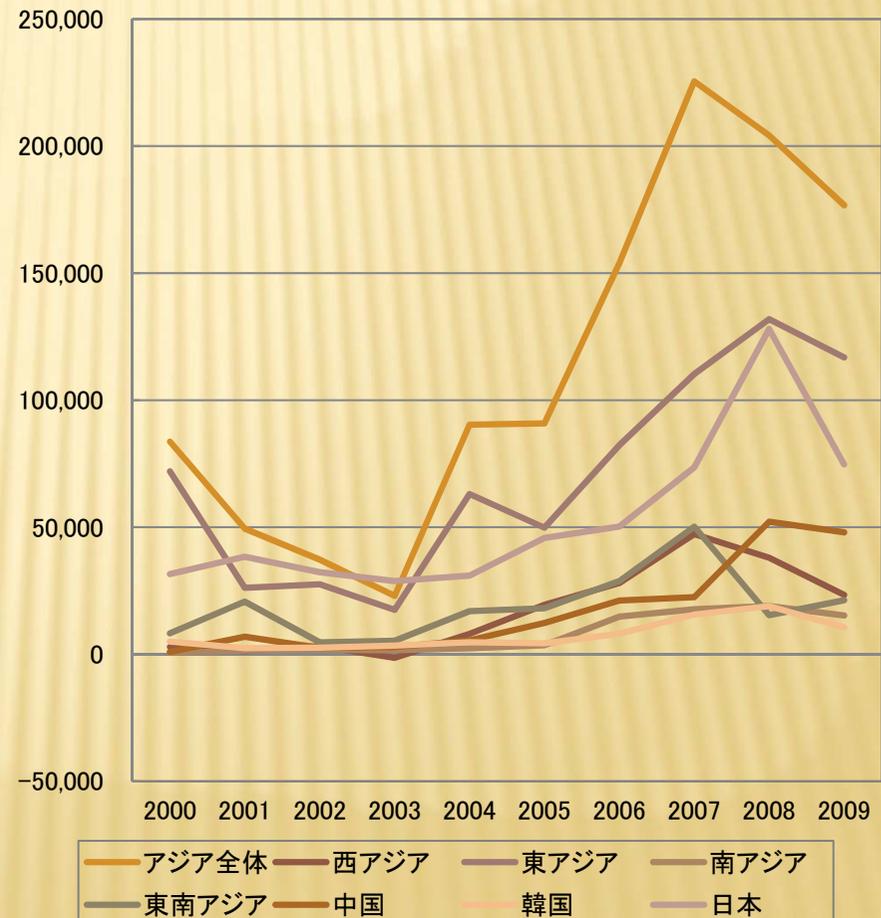
直接投資に関する資料

ASEAN+3対内外直接投資



アジア域内の対外直接投資の推移

(100万米ドル)



[7]産業 世界各国の協力が必要

「アジア諸国が何が出来るか」

- × アジアは先進国と新興国の貧困の差が大きい。先進国の人口減少の中、新興国は中国やインドを筆頭にし、人口増加現象にある。問題点は各国が自国だけで他国の事は関係ないという認識を捨てなくてはならない。アジア市場において今後は人口増減のギャップが大きくなる事は確実的である。その中で、各国の政府基盤を強化するとともに、親善なNPO・NGO・SBの更なる活性化が必要であるということを知った。

全体的成果

- × グローバル人材が最大のテーマであるが、今後アジア市場に進出していくAPUの留学生に直接感じている事を生で聞いたので良かった
- × 学生目線で実体を把握することに心掛けたことにより、繊細的部分にまで着目する事が出来た。（例；文化）
- × APUへのフィールドワークにより日本人が考えてるような事とはまったく違い、新しい価値観が生まれた。
- × APUに行った際に留学生と私たちが双方に理解したいという思いが強かった為、アンケートの結果も良かった。

まとめ・感想

今、日本そして世界はどこに向かおうとしているのであろうか?急成長するアジア市場は誰がリーダーとなり牽引していくのか未だ不透明な部分が多々あるのが現状である。

アジア経済班は独自の路線でアジアを切り開いていったことにより、今後の方向性をしっかりと確率出来たのはグループ共々感じている。

しかしながら、実際アジアの主導権を誰が握るのか具体的な方向が出た訳ではない。

グローバル人材においては留学生とのアンケート調査により大体の位置づけは出来たかもしれないが、「これがグローバル人材」とははっきりという事が出来ない。なぜならば地域や場所(特性)で異なることがあるからである。

今後誰と付き合い、問題を共有し、解決していくのか私たち日本人の意識を変え、状況に応じて海外の他国民付き合い合っていかななくてはならない事を実感した。

今後の課題

- × グローバル人材の確付
- × 留学生の受け入れ態勢の強化
- × 訪日外国人の受け入れ態勢強化
- × 一連の自由貿易協定の日本独自のフレームワーク作り

フィールドワークでの記念撮影



フィールドワークでの記念撮影



参考文献

- × 中国経済 隠された危機,三橋貴明
- × 中国経済の真実,沈才彬
- × 中国国洞 ~ブラックホールが世界をのみ込む,沈才彬
- × グローバル不均衡とアジア経済,谷内満著
- × もっと知りたいASEAN,渡辺利夫
- × 浜 矩子の「新しい経済学」,浜矩子
- × 低炭素社会,小宮山宏
- × アジア太平洋のFTA競争,浦田秀次郎訳
- × 解説 FTA・EPA交渉,外務省経済局EPA交渉チーム
- × FTAの政治経済分析,浦田秀次郎・上久保誠人
- × 資源クライシス,加藤尚武